



日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

日本農業経営大学校

学校の様子

2月も終わりに近づき、今年度の講義も終盤に差し掛かりました。

特別講義では、2月20日は株式会社近藤農園（香川県善通寺市）取締役近藤正敏さん、2月27日は農業用ロボットやその運用システムを開発しているフューチャーアグリ株式会社 代表取締役 蒲谷直樹さんをお迎えし、「講義をいただきました。

1年生の通常講義は、経営力領域の「農業簿記」、農業力領域の「日本の食料・農業政策」「資源・環境と農業生産」、社会力領域の「農山村の再生戦略」「協同組合論」「食生活と食文化」、体育的活動の「ダンス」、文化的活動の「華道」が終了し、1年生後期から2年生前期にかけて開講される経営力領域の「農業経営の会計・ファイナンス」が始まりました。学生は改めて気を引き締めているところです。

2年生は通常講義をほぼ終え、卒業までの期間は、卒業研究発表会と卒業研究の提出に向けて取り組みを進めました。3月に入ると、2年生は卒業式を迎えます。残りわずかな時間を無駄にすることなく、学校生活を全うしてもらいたいと思います。

全校行事

2月9日に実施した全校行事では、1年生が千葉県にある農事組合法人 和郷園に伺い、和郷園の全体説明と同社の関連施設を視察しました。

視察は、会員制貸農園・天然温泉・カフェ・コテージ・バーベキュースペースからなる「農園リゾート T H E F A R M」から始まり、冷凍加工センター「さあやSキッチン」、農産物直売所&レストラン「風土村」、冷凍工場向けほうれん草を生産している農家、リサイクルセンター・バイオマスプラント、カット工場、「野村和郷ファーム」など



(上) 和郷園にて集合写真 (下) 視察の様子

多岐に渡りました。

学生にとっては「雲の上の存在」のような同社代表 木内さんですが、若かりし頃の苦労話や農業・地域・仲間との関わりについてもお話しいただき、「考え続け、行動に移し続けられ、自分たちも時代を動かすことができるのではないか」と希望を抱いたり、日頃学んでいるミッション・ビジョン・バリューの必要性を再認識できる時間となったようです。

卒業研究発表会

2月15日、卒業研究発表会を行いました。

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャージャパン
〒108-0075 東京都港区港南 2-10-13 農林中央金庫品川研修センター 5階
TEL : 03-5781-3750 FAX : 03-5781-3752



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management



日本の農業を切り拓く、農業経営者へ。

日本農業経営大学校



卒業生は2年間の学びの成果を発表する集大成の日です。当日は、在校生と教職員のほか、当法人の理事、審議委員、さらには講師や実習の受け入れ先の方、近隣の農業大学の学生など、多くの方々にご参加いただきました。会場は臨時で椅子を並べなければならぬほど盛況となり、質疑も活発に行われました。

学生たちの緊張感は発表を聞いているこちら側にも伝わってくるほどでしたが、これまでの学びを十分に練って仕上げた内容だけあり、全員が自信に満ち溢れた表情をしていました。なお、当発表会は5名の審



(上) 発表会の様子
(下) 卒業生(2年生)と、左より、校長、理事長、常務理事。

査員より評価をいただきますが、13名の発表はいずれも個性的で、審査員をうならせました。また、改めて本校の学生の関心とビジョンの多様性を理解することもできました。指導にあたったゼミ教員は、肩の荷がひとつ下りたことと思います。

本校ではプレゼンテーションをする機会を多く設けていますが、1年生の時と比べ話し方や見せ方、表現の上達ぶりにはこちらも驚かされました。この経験を将来の農業経営にも活かしてくれることを期待します。



日本農業経営大学校

Japan Institute of Agricultural Management

※本誌の無断転用・転載を禁止します。

[発行人] 一般社団法人アグリフューチャージャパン

〒108-0075 東京都港区港南 2-10-13 農林中央金庫品川研修センター 5階

TEL : 03-5781-3750 FAX : 03-5781-3752